



舟越桂 [積んである読みかけの本のように] 1983

高松市美術館 コレクション展

2001年3月9日(金)ー3月25日(日)

開館/火・水・木曜日(9時から18時まで)/金曜日(19時まで)/土・日曜日・祝日(17時まで)/入室はいずれも閉館30分前まで 月曜日休館

入場料/一般400円 高大生200円 小中生100円(前売りおよび団体20名様以上は2割引)

◎65歳以上の高齢者(長寿手帳等が必要)

◎身体障害者手帳・療育手帳または精神障害者保健福祉手帳所持者は無料

◎3月10日(土)は小・中・高生無料

高松市美術館 Takamatsu City Museum of Art
〒760-0027 高松市紺屋町10-4 Tel.087-823-1711 主催/高松市美術館

THE COLLECTION
of Takamatsu City Museum of Art
[3-D Works in Japan After the War]

—戦後日本の立体造形—



深井隆 [忘れゆく思念] / 1987



田中信太郎 [ハートのモービル] / 1974



田窪恭治 [黄昏の娘たち 82-1] / 1981-82



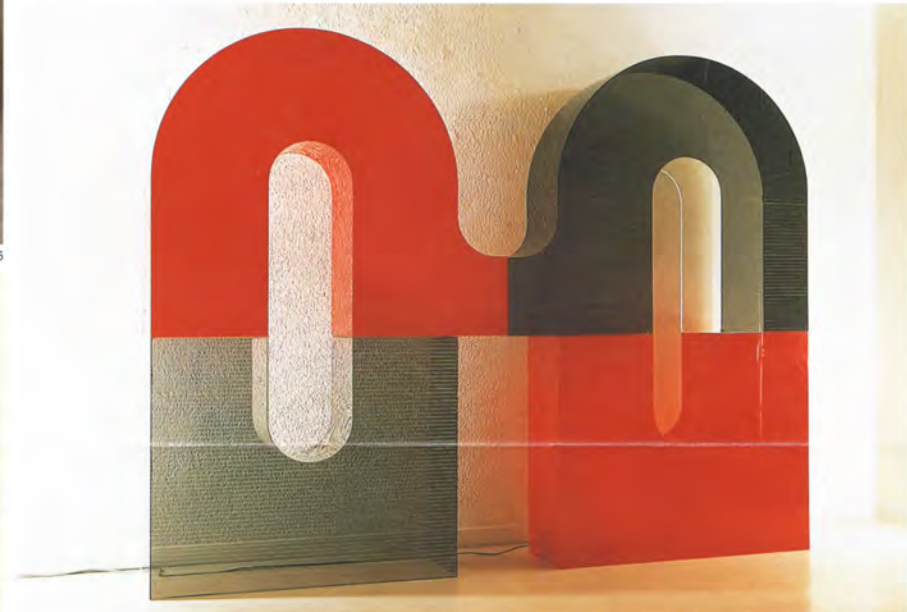
北辻真央 [トラベラー] / 1985

The Collection of Takamatsu City Museum of Art -3-D Works in Japan After the War-

高松市美術館では、1988年に開館して以来、第2次世界大戦後の日本の「現代美術」を収集方針のひとつとして積極的にコレクションを行っています。今回のコレクション展では、その中から立体による作品約50点を選び、その魅力を紹介します。

「立体造形」とは特定のジャンルや技法を指す言葉ではありません。おもに具象的なものを対象として量感ある表現を行う「彫刻」に対して、「立体造形」とは単純に、平面ではなく3次元の空間を用いた作品を指す言葉として今では広く使われています。というのも、20世紀以降、ことに戦後においては従来の「彫刻」という考えでは捉えきれない作品が多く制作されるようになったからです。例えば、抽象的な形態を扱ったもの、平板な面や線で構成されたもの、日常的な既製品などを提示する「オブジェ」と呼ばれるもの、作品自体が光を発するもの、あるいは動くもの。こうした様々な方法によって、空間の中での新しい「物」のあり方が探られていったのです。また、ブロンズや木、石といった以前から使われている素材に加え、様々な種類の金属やプラスチックなどの新しい素材が好んで用いられるようになりました。

これらの多様な表現は、その時々々の社会的・経済的な状況と密接に関係しつつ模索されてきたものです。新しい世紀に立った今日、私たちが生きてきた時代に作られた「現代美術」とはどういうものだったのか、その一端をここであらためて振り返ってみたいと思います。



山口勝弘 [キス] / 1968

ギャラリートーク

当館学芸員による展示作品の解説

3月17日(土)午後2時～ 2階展示室にて

美術館ボランティア

「civi(シヴィ)」とともに 展示作品の鑑賞

3月18日(日)・20日(火)・25日(日)

午前11時～、午後2時～ 2階展示室にて

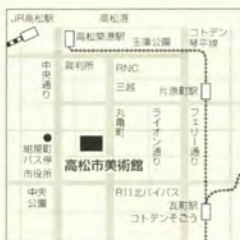
交通のご案内

JR四国—JR高松駅下車、南へ徒歩15分

琴平電鉄—瓦町駅・片原町駅下車、徒歩10分

バス路線—紺屋町バス停下車、徒歩3分

駐車場—美術館地下に公営駐車場(有料、乗用車144台収容)



藤原有司 [モーターサイクル・ツイステッド] / 1973



小清水漸 [EVEの食卓] / 1963



吉村益信 [ウイングス・ウイズ・ミラーズ] / 1966-67